

平成26年第3回臨時会

企画産業常任委員会  
会 議 録

期日：平成26年4月30日（水）

場所：大曲庁舎 3階 議会応接室

# 大仙市議会企画産業常任委員会会議録

日 時 平成26年4月30日（水曜日） 午前10時00分 ～ 午前10時41分

会 場 大仙市役所 3階 議会応接室

出席議員（7人）

1 番 富 岡 喜 芳      8 番 藤 田 和 久      1 1 番 茂 木      隆  
1 3 番 古 谷 武 美      1 4 番 武 田      隆      1 6 番 高 橋 幸 晴  
2 0 番 佐 藤 清 吉

欠席議員（0人）

説明のため出席した者

農 林 商 工 部 長 佐々木誠治      次長兼企業対策課長 小野地 洋  
商 工 観 光 課 長 五十嵐秀美      商 工 観 光 課 参 事 今 善 雄

議会事務局職員出席者

主 査 佐藤和人

審査案件

1 議案第67号 平成26年度大仙市一般会計補正予算（第2号）

午前10時00分 開 会

○委員長（高橋幸晴） おはようございます。

本会議休憩中のところ、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

春爛漫の季節、時期になりますが、農家の人方にとっては一雨欲しいなというところアチコチから聞こえてくるような状況であります。桜には申し訳ありませんが、雨が欲しいなというところではないかなと思っています。

只今から、企画産業常任委員会を開会いたします。

本日の審査は、当委員会に付託された事件について、お手元に配付の日程表に従って行ってまいります。なお、正確な会議録作成のため、発言する際には、委員長の許可を得た後で、マイクのスイッチを入れてからお願いいたします。

---

○委員長（高橋幸晴） それでは、議案審議に入ります。

議案第67号「平成26年度大仙市一般会計補正予算（第2号）」を議題といたします。当局の説明を求めます。五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） 私の方からご説明申し上げます。

平成26年度大仙市一般会計補正予算（第2号）のうち、商工観光課所管の補正予算につきましてご説明申し上げます。

資料No.2の4月補正予算書7ページ、資料No.2-1「主な事業説明書」に基づいてご説明申し上げます。1ページをご覧いただきたいと存じます。

7款1項4目24事業「西仙北ぬく森温泉管理費」2,781万8千円の補正であります。ぬくもり温泉ユメリアの空調につきましては、バンケットホールなどの一部を除いて、ガスヒートポンプ式エアコンによる管理をしております。7系統に設備が分かれています。当初導入した空調設備機器メーカーのヤマハが事業撤退したことにより、部品の製造がストップしております。平成22年度には7系統のうち4系統に不具合が生じたため、国の「地域活性化・きめ細かな臨時交付金の活用を図り改修を行っております。現在まで改修により撤去した室外機等を3系統に再利用してはりましたが、再利用できる部品も少なくなっている状況の中、本年の設備点検をおこなったところ、1系統が故障により停止しており、点検業者から原因を調査していただいた結果、部品の調達もなく修繕できない状況の報告を受けたものであります。残りの2系統についてもたびたび老朽化による不具合も生じており、今までも営業に支障をきたしている状況にありました。このように空調設備の故障による今後の営業への影響を考慮し、今般、3系統すべての改修をお願いするものであります。

また、事業説明書の3のこれまでの成果と今後の方向性について」に記載しておりますが、同施設は、本年8月に「早稲田大学応援部約160名」の合宿を受け入れ、延べ9日間、延べ宿泊人数約1,440人を予定しているほか、「学習院大学約90名」も予定しております。団体客が大勢いる中での空調設備トラブルは是非とも避けなければ出来ないと協議したところであります。これらの状況と7月ころからの暑さを想定する

と6月補正では、工期的に無理があり、このタイミングでの補正をお願いするものがあります。補正額の内訳については、実施設計費48万8,160円、工事管理費48万3,840円、工事請負費2,684万5,560円となっております。

それでは、別紙の図面の方をお願い申し上げます。①番、②番、④番が今回の3系統をお願いする部分でございます。左端の①番、1階のロビーから青色の部分が1系統部分になります。このピンク色の部分は、さきほど言ったバンケットホール、3つの大きな部屋のところが冷温水器による冷暖房装置となっております。それと②番のフロント、エントランスの部分も今回の改修の系統の1つとなっております。④番の2階の厨房ですけれども、良く見えませんが、今回直す部分でございます。③、2階の和室の⑤、3階の右側の方になりますけれども⑥、⑦がありますけれども、こちらが平成22年度直してるものがございます。箇所については以上でございます。

以上、ご説明を申し上げましたが、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（高橋幸晴） 説明が終了いたしました。これより質疑を行います。

質疑のある方は、お願いいたします。はい、武田委員。

○14番（武田 隆） ヤマハが撤退したということで、今度新たなところ、そのメーカーというのは途中で部品無くなったり、会社潰れたりするんたところではねえべな。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） ヤマハは、数年後に撤退したと伺っております。それで、前回入れたのはサンヨーという、ガスヒートポンプでも多く扱っているメーカーですので、多分部品調達とか、そういったもので設計されると思いますので、この後は、そういうことのないようにメーカー指定されることと、メーカーなり、製造なり、受注生産でありますので、そういったところでお願いしてまいりたいと思います。

○委員長（高橋幸晴） ほかにございませんか。武田委員。

○14番（武田 隆） いずれ前回も3千万かけて空調直してるし、今回も2,700万かけて空調直しますけれども、さっきの文子さんの質問にもありましたけれども、耐用年数って、そなたに簡単に10年くらいで壊れるものなのかどうか。それから作った時のアレいろいろあるかもしれねけども、いずれユメリアに関しては、地元で非常に言いにくいことだけれども、これからますますその維持管理費用というか、修繕費かかって

いくような感じがするわけですし、当然、指定管理料も払っているし、こういうふうにして膨大な金額が、その都度出てくるということになれば、市としてもかなりの持ち出しになるような感じを持たざるを得ないというふうに思うんで、そのあたり、例えばもう10年経ったらユメリアを廃止して、どっかに売却するとか、そういうこともそれこそか、市としての将来方向ということを考えておるのかどうかということもあわせてお聞かせ願いたいと思います。

○委員長（高橋幸晴） 農林商工部長。

○農林商工部長（佐々木誠治） さきほどは大変失礼しました。突然の質問でちょっとあわてましたけれども、ガスヒートポンプの耐用年数は10から15年ということで、使用頻度によりまして、延びるわけですが、やはり最低でも10年ということでもありますので、ひとつ、ご理解願いたいと思います。

また、いろんな温泉施設等々が、大分、経年劣化、老朽化してきておりまして、年々修繕費が嵩んできております。実は、先ほど委員長にお願いいたしまして、担当部として今後の在り方というものを検討させてもらいたいということをお願ひしようと思っただけなんですけれども、このまま続きますと、指定管理を受けている側でも年々修繕は細かい額ですけれども、件数が増えてきておりまして、相当数のものがありまして、経営、運営の方に圧迫してきているという状況にありますので、今後におきまして、担当課を含めまして、少し、近い将来のことを検討していく必要があると思います。特に、温泉施設の場合は、お客様が毎日のように来てますので、そのあたりも含めまして、当初の設立目的を加味しながら、ひとつ、検討する時期に来たのではないかと思います。ただ、議会の方にお願ひしまして、第三セクター関係の特別委員会と、先般の公共施設の特別委員会もありますので、そのあたりも含めまして、今度そのようなことを踏まえた検討に入る必要があるかと思っておりますので、その時はまた、ひとつ、議員の皆様にご難儀をおかけしますが、よろしくご指導、ご協議方をお願いしたいと思います。

○委員長（高橋幸晴） ほかに。はい、茂木委員。

○11番（茂木 隆） 光熱費のことでお聞きしたいんですけれども、昨年度、再生可能エネルギーの設備をしたわけでありまして、これまでは年間どのくらいの光熱費がかかって、昨年度設置した再生可能エネルギーのアレでどのくらいの削減が見込まれるのか、それをお尋ねしたいと思います。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） 現在3カ月のデータしかもっておりません。

3カ月で、5万2,178円の減になっております。それと、夏場とか、こういった、時期的にもありますし、今のところ正確な1年を通したデータは無い状況にあります。

○委員長（高橋幸晴） 茂木委員。

○11番（茂木 隆） それを設置したことによって、当然削減されるということで、設置したわけですがけれども、災害時も含めてでありますけれども、大体どのくらいの、年間を通して何パーセントとか、そういう、ある程度の数字は当初から持っていると思えますけれども。して、年間どのくらいの、かかっているか。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） この再生可能エネルギーの計画した段階では、値上げとか、灯油等々も低い状況にありましたけれども、電気料金が丁度上がったタイミングで、この6カ月で750万ほどの電気料になっております。それと灯油は逆に減っておりますけれども、電気料が、蓄熱電気料金とか、そういったものがプラスになっておりまして、そういった削減は余り大きな数字は、当初から再生可能エネルギー上でも、そういった削減はできない、灯油は下がりますけれども、電気料はある程度かかるという積算をしておりまして、詳しい再生可能エネルギー上の数値は今持っておりませんので、今かかっている費用だけの積算でございます。

○委員長（高橋幸晴） 茂木委員。

○11番（茂木 隆） ユメリアの、今年、早稲田大学の応援部が160名の9日間宿泊するというので、また、学習院大学も。ユメリアそのものの収容、宿泊人員はどのくらいで、年間大体どのくらいの稼働率というか、なっているものですか。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） 宿泊は、24年度でいけば、5,725人の宿泊者になっております。それと1日当たりの宿泊なんですけれども、72人なんですけれども、大きなホールで特別に申請できれば、旅館業の申請を行って、交流館のあたりで、雑魚寝というスタイルでやっておりますので、160名は宿泊できる施設になっております。

○委員長（高橋幸晴） ほかにございせんか。はい、武田委員。

○14番（武田 隆） ガスヒートポンプというエアコン、ガスヒートを使ったエアコンということで、例えば電気使ったとかということになれば、もっとこの耐用年数とかというのは、上がる可能性とかっていうのはあるんだが。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） このガスヒートポンプの良いところからご説明したいと思います。大きな容量ではなくて、小さく温度管理ができるという、例えば冷暖の切り替えが必要ないと、市役所の建物であれば冷温水器の切り替えしますよね、よく今日までは暖房やって、明日から冷房ができるというスタイルのものが冷温水器設備による冷暖房というところで、先ほど言ったバンケットホールは、こういった冷温水器による冷暖房設備にしております。それと厨房なんかは片方で暖房やって、厨房は暖かいので冷房したい時にガスヒートポンプの方が効率が良いというところで、温度管理という考え方になっております。こういった複合施設の場合は、そういった組み合わせをしながら冷暖の装置をしております。それと電気というところでは、価格帯というか、運営する以上、電気は変動もありましたし、そういったところでガスの方が若干安いというところでガスヒートポンプを採用しているケースが多いと設計屋さんの方から伺っております。そういったところで、系統も分けてリスクを回避するというものと、その部屋によって温度管理、例えば冷房の冷たいものが必要だということ、市役所なんかは冷温水器の切り替え方式の一つで冷暖をやっております。こういった複合施設は、こういった組み合わせが多いというところを設計屋さんから伺っております。

○委員長（高橋幸晴） ほかにございませんか。はい、古谷副委員長。

○副委員長（古谷武美） 先ほどメーカーさん、ヤマハさんということで話ありましたが、このメーカーを決めたのは業者でしょうか、それとも市当局の方で決めたのでしょうか。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） 当時は、平成11年、12年なので、西仙北の方なので、我々そこまではご承知しておりません。例えば、設計さんがヤマハにしたのか、発注する側が、そういったものが安価で、先ほど言いました安価で導入した方が良いというところは、我々にご存じ、平成十何年の西仙北時代の話ですので、我々にご承知してないです。

○委員長（高橋幸晴） 古谷副委員長。

○副委員長（古谷武美） これからは、そうすればメーカーは業者にお願いするか、こっちで、どの様な形になるのか。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） これ設計上の問題ですけれども、例えば大手の一番ガスヒートポンプが取り扱っている、そういったものを設計に組み入れるというのが普通です。例えばメーカー指定、どうしてもメーカー指定しなければならない、例えばサンヨーであれば、この施設を管理していく上で、サンヨー製にした方が良いというものの考えもありますし、それに類似する方式で設計を組立ててサンヨーになる場合が普通は多くなっております。例えばパナソニックとか、そういったものもあるんですが、ここの施設はもうサンヨーが前回の時に入ってますので、そういった指定で行うことができるものと、設計上それに類似する仕様書にして設計を立てて入札というスタイルが普通かなというところなんです。どちらか選択になるかと思えますけれども、以上そういった設計上の問題かなという気がします。以上でございます。

○委員長（高橋幸晴） 古谷副委員長。

○副委員長（古谷武美） 先ほど、佐々木部長から大体10年から15年の寿命という話ありましたけれども、例えば10年の保証の契約を結んでおけば、3年くらい前に1回故障してあるということで修繕してあるということなんですけれども、例えば10年保証契約しておいて、7年のところは業者でやるとか、そういう契約は出来ないんですか。

○委員長（高橋幸晴） 五十嵐商工観光課長。

○商工観光課長（五十嵐秀美） こういった空調設備については、通常であれば1年の保証期間です。ただ、よくメンテナンスの、例えば以降9年間をメンテナンスで契約できるかどうかというのは、多分業者の方でも、こういった故障とかリスクを考えれば、契約は多分今のところしているところはないかと思えます。保証期間だけ1年は空調設備ではもってますけれども、残りを保証期間として取り扱っているケースはあまりないかなという気がします。

○委員長（高橋幸晴） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（高橋幸晴） なければ質疑を終結いたします。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（高橋幸晴） 討論なしと認めます。

お諮りします。本件につきましては、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。



(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長（高橋幸晴） 異議なしと認め、本件は原案のとおり可決すべきものと決しました。

---

○委員長（高橋幸晴） 以上で、当委員会に審査付託となりました事件の審査は、すべて終了いたしました。

なお、本委員会の「審査報告書」及び「委員長報告」の案文につきましては、委員長にご一任願いたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長（高橋幸晴） ご異議なしと認め、そのように決しました。

これで、企画産業常任委員会を閉会いたします。

お疲れ様でした。

午前10時41分 閉 会

委員会条例第29条第1項の規定により、ここに署名する。

平成 年 月 日

企画産業常任委員会委員長 高 橋 幸 晴